

鳥獣被害対策の基本

4つのポイント

まずは、鳥獣を寄せつけさせない環境づくりが、対策の基本です。身のまわりを点検し、ヤブの草刈り、追い払い、放置ゴミの撤去などを行いましょ。また被害が進行した場合には、柵を設けたり、捕獲したりすることが、重要な対策となります。

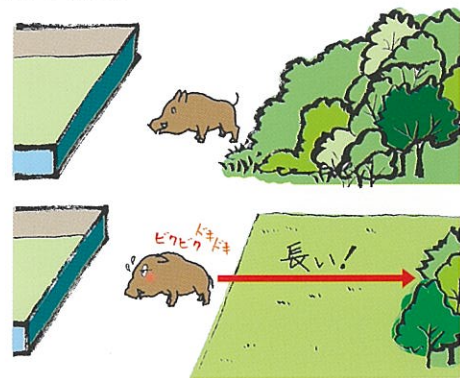
ポイント その1

近づけさせない!

田畑近くのヤブは、野生鳥獣の格好の隠れ場所となります。また、見かけてもそのままにしておくと、どんどんと人慣れが進みます。地域ぐるみで隠れ場所の解消や追い払いを行い、野生鳥獣を近づけさせない環境をつくっていきましょう。

隠れ場所をなくす

家や田畑のまわりのヤブは、鳥獣にとって格好の隠れ場所や田畑への侵入路となっています。草刈りなどによって管理を行い、見通しの良い場所に変えていきましょう。



追い払う

農作物の生育期や収穫期だけでなく、見かけたら年中追い払いましょ。「人間は怖い!危険だ!」と学習させることが必要です。



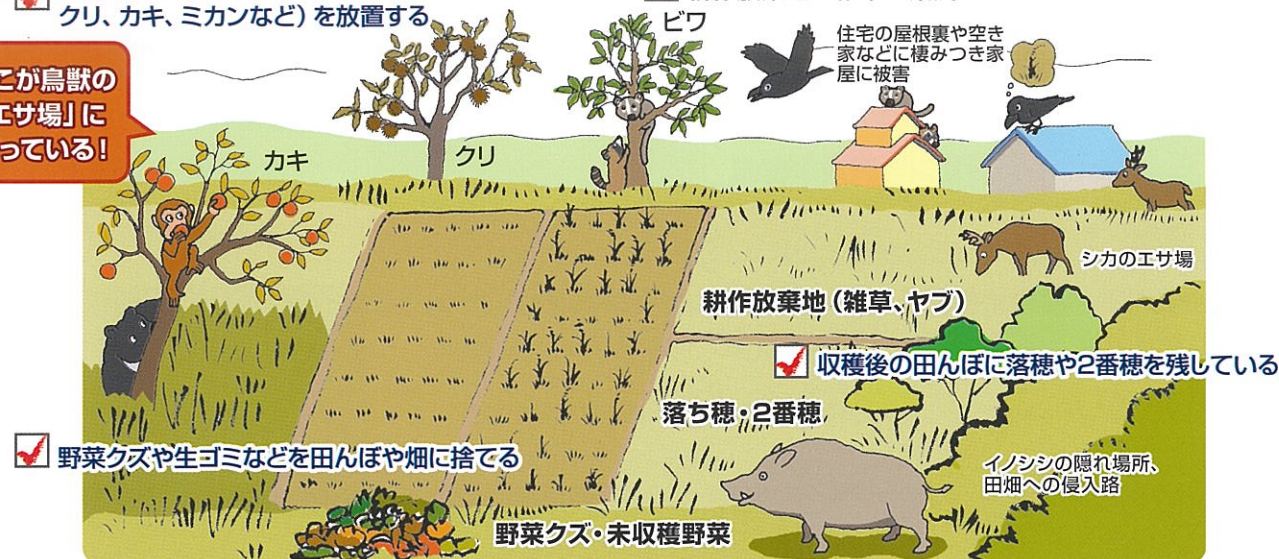
ポイント その2

「エサ場」をなくそう!

農作物はもちろんのこと、身のまわりの思わぬものが野生鳥獣を引き寄せるエサとなります。野生鳥獣にそこがエサ場だと学習させないように、田畑や家のまわりの環境を改善していきましょう。

- ☑ 収穫しないまま果実(ビワ、スモモ、クリ、カキ、ミカンなど)を放置する
- ☑ 耕作放棄地に雑草が繁茂したり、ヤブになったりしている

ここが鳥獣の「エサ場」になっている!



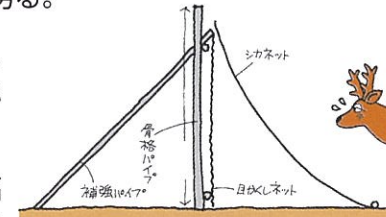
ポイント その3

囲いで守る!

身近にある自家用菜園など、小規模な田畑を守るのに欠かせないのが柵です。柵には、ネット柵、電気柵、金属フェンスなどいくつかの種類があります。それぞれの特徴を把握し、獣種や現場にあわせたものを設置しましょう。

ネット柵

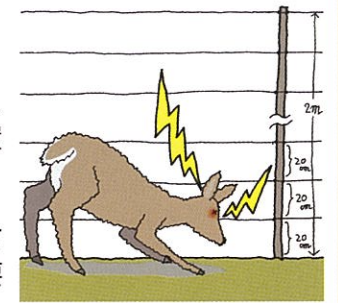
- 安価で設置が容易。
- 防除効果がやや劣る。
- 強度が弱いので、設置後の管理が必要となる。
- ステンレス線が編みこまれていない網は、噛み切られることがある。



※斜めに張ったネットは、イノシシが登るからイノシシ柵も要す
コスト:100 ~ 300 円/m

電気柵

- 安価で設置が容易。
- 高い防除効果がある。
- 漏電防止のための草刈り、電圧チェックなどの設置後の管理が必要となる。
- 獣種ごとに、電線の高さや間隔を考慮する必要がある。



コスト:300 ~ 500 円/m

! 飛び越えやくぐり抜けにも対応を!

シカ対策用の柵は、飛び越えを防ぐため、2mほどの高さに設置することが必要です。ネット柵の場合、柵の外側に向けてネットを2~2.5m斜めに垂らすと、下からのくぐり抜けや、上からの飛び越えを防ぐことができます。

! 定期的に柵のメンテナンスを!

柵に穴があいたりすると、シカはその穴の場所を覚え、何度でも同じ穴から侵入しようとしています。補修はしっかりと行い、侵入されないよう定期的に管理をしましょう。電気柵の場合には、漏電防止のために草刈りを忘れずに行いましょう。

ポイント その4

捕獲する!

被害が減らない場合には、捕獲を行います。効果的な捕獲とは、被害を引き起こしている個体を狙うことです。ただし、捕獲には免許が必要です。免許を取得し、積極的に捕獲に取り組みましょ。

山の10頭 < 里の1頭を

山奥の鳥獣の捕獲数を上げるより、田畑の食べ物に依存する鳥獣を狙うほうが、被害は減少します。



獣種ごとに適する捕獲機材

- イノシシ: 銃器・箱わな・足くりわな
- シカ: 銃器・箱わな・足くりわな
- アナグマ・ハクビシン: 箱わな